

○農林中央金庫がその経営の健全性を判断するための基準（平成十八年三月二十八日 金融庁 農林水産省 告示第四号）

<p style="text-align: center;">改正案</p>	<p>(定義)</p> <p>第一条 この告示において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。</p> <p>一〜十二 (略)</p> <p>十三 クレジット・デリバティブ 次に掲げるものをいう。</p> <p>イ 金融商品取引法（昭和二十三年法律第二十五号）第二条第二十一項第五号に掲げる取引のうち同号イに掲げる事由に係る取引</p> <p>ロ 金融商品取引法第二条第二十二項第六号に掲げる取引のうち同号イに掲げる事由に係る取引</p> <p>ハ 金融商品取引法第二十三項に規定する外国市場デリバティブ取引のうちイに掲げる取引に類似する取引</p> <p>十四〜十八 (略)</p> <p>十九 上場株式 取引所金融商品市場（金融商品取引法第二条第十七項に規定する取引所金融商品市場をいう。以下同じ。）、店頭売買有価証券市場（金融商品取引法第六十七条第二項に規定する店頭売買有価証券市場をいう。以下同じ。）又は外国金融商品市場（金融商品取引法第二条第八項第三号ロに規定する外国金融商品市場をいう。以下同じ。）において売買されている株式をいう。</p>
<p style="text-align: center;">現行</p>	<p>(定義)</p> <p>第一条 この告示において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。</p> <p>一〜十二 (略)</p> <p>十三 クレジット・デリバティブ 農林中央金庫法施行規則（平成十三年 <small>内閣府</small> 農林水産省 令第十六号。以下「規則」という。）第十七条第三項第六号に規定する取引をいう。</p> <p>十四〜十八 (略)</p> <p>十九 上場株式 取引所有価証券市場（証券取引法（昭和二十三年法律第二十五号）第二条第十七項に規定する取引所有価証券市場をいう。以下同じ。）、店頭売買有価証券市場（証券取引法第六十七条第二項に規定する店頭売買有価証券市場をいう。以下同じ。）又は外国有価証券市場（証券取引法第二条第八項第三号ロに規定する外国有価証券市場をいう。以下同じ。）において売買されている株式をいう。</p>

二十〇三十 (略)

三十一 金融機関等向けエクスポージャー 次に掲げるエクスポージャーをいう。

イ (略)

(削る。)

ロ ホ (略)

ヘ 第四十一条において金融機関向けエクスポージャーの取扱いを認められた第一種金融商品取引業者（金融商品取引法第二十八条第一項に規定する第一種金融商品取引業者及びこれに準ずる外国の者をいう。以下同じ。）及び経営管理会社（国内に本店その他の主たる営業所又は事務所を有する法人（銀行又は銀行持株会社を除く。）であつて、当該法人の子会社（財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則（昭和三十八年大蔵省令第五十九号。以下「財務諸表等規則」という。）第八条第三項に規定する子会社をいう。）のうちに第一種金融商品取引業者を含み、かつ、当該法人が作成する連結財務諸表に基づき合算自己資本及び所要自己資本の計算を行っている者及びこれに準ずる外国の者をいう。以下同じ。）に対するエクスポージャー
三十二〇七十四 (略)

(マーケット・リスク相当額不算入の特例)

第四条 農林中央金庫が次の各号に掲げる要件を満たす場合には、第二条の算式にマーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで

二十〇三十 (略)

三十一 金融機関等向けエクスポージャー 次に掲げるエクスポージャーをいう。

イ (略)

ロ 日本郵政公社（日本郵政公社法（平成十四年法律第九十七号）に規定する日本郵政公社をいう。以下同じ。）に対するエクスポージャー

ハ ケ (略)

ト 第四十一条において金融機関向けエクスポージャーの取扱いを認められた証券会社及び証券持株会社に対するエクスポージャー

三十二〇七十四 (略)

(マーケット・リスク相当額不算入の特例)

第四条 農林中央金庫が次の各号に掲げる要件を満たす場合には、第二条の算式にマーケット・リスク相当額の合計額を八パーセントで

除して得た額（以下「マーケット・リスク相当額に係る額」という。）を算入しないことができる。ただし、当該算式にマーケット・リスク相当額に係る額を算入しない場合には、準補完的項目を算入してはならない。

一 特定取引勘定（農林中央金庫法施行規則（平成十三年内閣府令第十六号。第十条第二項第二号において「規則」という。）省令第十六号。第十条第二項第二号において「規則」という。）

第六十五条第一項に規定する特定取引勘定をいう。以下同じ。）を設けた場合 次に掲げる条件のすべてを満たす場合

イ〜ハ （略）
二 （略）

（控除項目）

第八条 第二条の算式において控除項目の額は、次に掲げる額の合計額とする。

一 （略）

二 農林中央金庫又は連結子法人等が保有している次に掲げるものの資本調達手段（前号に該当するものを除く。）の額を合算した額

イ・ロ （略）

ハ 農林中央金庫が金融業務を営む会社を関連法人等（令第八条第三項に規定する関連法人等をいう。）としている場合における当該関連法人等（次条において「金融業務を営む関連法人等」という。）

2
三〜六 （略）
（略）

除して得た額（以下「マーケット・リスク相当額に係る額」という。）を算入しないことができる。ただし、当該算式にマーケット・リスク相当額に係る額を算入しない場合には、準補完的項目を算入してはならない。

一 特定取引勘定（規則第二十五条の二第一項に規定する特定取引勘定をいう。以下同じ。）を設けた場合 次に掲げる条件のすべてを満たす場合

イ〜ハ （略）
二 （略）

（控除項目）

第八条 第二条の算式において控除項目の額は、次に掲げる額の合計額とする。

一 （略）

二 農林中央金庫又は連結子法人等が保有している次に掲げるものの資本調達手段（前号に該当するものを除く。）の額を合算した額

イ・ロ （略）

ハ 農林中央金庫が金融業務を営む会社を関連法人等（令第六条第三項に規定する関連法人等をいう。）としている場合における当該関連法人等（次条において「金融業務を営む関連法人等」という。）

2
三〜六 （略）
（略）

(信用リスク・アセットの額の合計額)

第十条 (略)

2 農林中央金庫は、次の各号に掲げる場合において、当該各号に定めるものについては信用リスク・アセットの額を算出することを要しない。

一 (略)

二 特定取引勘定を設けた場合において第二条の算式にマーケット・リスク相当額に係る額を算入する場合 前号に定めるもの並びに特定取引勘定の資産及び連結子法人等における特定取引等(規則第六十五条第二項に規定する特定取引その他これに類似する取引をいう。以下同じ。)に係る資産

三 (略)

3 (略)

(内部格付手法又は先進的計測手法の使用開始に伴う所要自己資本の下限)

第十三条 (略)

2・3 (略)

4 第一項(第二項において準用する場合を含む。)の「旧所要自己資本の額」とは、第二条に定める算式の分母の額に八パーセントを乗じて得た額、第五条第一項各号に掲げる額及び第八条の定めるところにより控除される額のそれぞれにつき内部格付手法(第二項において第一項を準用する場合にあつては先進的計測手法)の使用を開始した日の直前に用いていた手法により算出した額の合計額から第

(信用リスク・アセットの額の合計額)

第十条 (略)

2 農林中央金庫は、次の各号に掲げる場合において、当該各号に定めるものについては信用リスク・アセットの額を算出することを要しない。

一 (略)

二 特定取引勘定を設けた場合において第二条の算式にマーケット・リスク相当額に係る額を算入する場合 前号に定めるもの並びに特定取引勘定の資産及び連結子法人等における特定取引等(規則第二十五条第二項に規定する特定取引その他これに類似する取引をいう。以下同じ。)に係る資産

三 (略)

3 (略)

(内部格付手法又は先進的計測手法の使用開始に伴う所要自己資本の下限)

第十三条 (略)

2・3 (略)

4 第一項(第二項において準用する場合を含む。)の「旧所要自己資本の額」とは、第二条に定める算式の分母の額に八パーセントを乗じて得た額、第五条第一項各号に掲げる額及び第八条の定めるところにより控除される額のそれぞれにつき内部格付手法(第二項において第一項を準用する場合にあつては先進的計測手法)の使用を開始した日の直前に用いていた手法により算出した額の合計額から第

六条第一項第三号に掲げる額につき当該直前に用いていた手法により算出した額を控除した額をいう。ただし、農林中央金庫が先進的
内部格付手法の使用を開始する日の直前に基礎的内部格付手法を用
いていた場合には、農林中央金庫は、当該直前に用いていた手法に
代えて、当該先進的内部格付手法の使用を開始する日の直前に基礎
的内部格付手法を採用していた農林中央金庫としての旧所要自己資
本の額の算出に用いていた手法を用いることができる。

5 (略)

(算出の方法等)

第十五条 単体自己資本比率は、農林中央金庫の財務諸表に基づき算
出するものとする。この場合において、農林中央金庫の財務諸表に
ついては、財務諸表等規則に基づき作成することとする。ただし、
農林中央金庫が海外特別目的会社を有する場合においては、当該会
社を含む連結財務諸表に基づき算出するものとする。この場合にお
いて、連結財務諸表については、連結財務諸表規則に基づき作成す
ることとし、連結に伴う自己資本比率算出上の扱いは第二章に準ず
ることとする。

(基本的項目)

第十七条 (略)

2～6 (略)

7 第一項中「その他有価証券」とは、財務諸表等規則第八条第二十
二項に規定するものをいう(以下この章において同じ。)

六条第一項第三号に掲げる額につき当該直前に用いていた手法によ
り算出した額を控除した額をいう。

5 (略)

(算出の方法等)

第十五条 単体自己資本比率は、農林中央金庫の財務諸表に基づき算
出するものとする。この場合において、農林中央金庫の財務諸表に
ついては、財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則(昭
和三十八年大蔵省令第五十九号。以下「財務諸表等規則」という。
)に基づき作成することとする。ただし、農林中央金庫が海外特別目
的会社を有する場合においては、当該会社を含む連結財務諸表に基
づき算出するものとする。この場合において、連結財務諸表につい
ては、連結財務諸表規則に基づき作成することとし、連結に伴う自
己資本比率算出上の扱いは第二章に準ずることとする。

(基本的項目)

第十七条 (略)

2～6 (略)

7 第一項中「その他有価証券」とは、財務諸表等規則第八条第二十
一項に規定するものをいう(以下この章において同じ。)

<p>8 (略)</p> <p>(内部格付手法又は先進的計測手法の使用開始に伴う所要自己資本の下限)</p> <p>第二十四条 (略)</p> <p>2・3 (略)</p> <p>4 第一項(第二項において準用する場合を含む。)の「旧所要自己資本の額」とは、第十四条に定める算式の分母の額に八パーセントを乗じて得た額、第十七条第一項各号に掲げる額及び第二十条の定めるところにより控除される額のそれぞれにつき内部格付手法(第二項において第一項を準用する場合にあつては先進的計測手法)の使用を開始した日の直前に用いていた手法により算出した額の合計額から第十八条第一項第三号に掲げる額につき当該直前に用いていた手法により算出した額を控除した額をいう。ただし、農林中央金庫が先進的内部格付手法の使用を開始する日の直前に基礎的内部格付手法を用いていた場合には、農林中央金庫は、当該直前に用いていた手法に代えて、当該先進的内部格付手法の使用を開始する日の直前に基礎的内部格付手法を採用していた農林中央金庫としての旧所要自己資本の額の算出に用いていた手法を用いることができる。</p> <p>5 (略)</p> <p>(金融機関向けエクスポージャー)</p> <p>第四十条 金融機関(第一条第六号ロに掲げる者を除く。次項において同じ)、外国銀行、銀行持株会社及び銀行持株会社に準ずる外国の会社向けエクスポージャーのリスク・ウェイトは、当該金融機関</p>	<p>8 (略)</p> <p>(内部格付手法又は先進的計測手法の使用開始に伴う所要自己資本の下限)</p> <p>第二十四条 (略)</p> <p>2・3 (略)</p> <p>4 第一項(第二項において準用する場合を含む。)の「旧所要自己資本の額」とは、第十四条に定める算式の分母の額に八パーセントを乗じて得た額、第十七条第一項各号に掲げる額及び第二十条の定めるところにより控除される額のそれぞれにつき内部格付手法(第二項において第一項を準用する場合にあつては先進的計測手法)の使用を開始した日の直前に用いていた手法により算出した額の合計額から第十八条第一項第三号に掲げる額につき当該直前に用いていた手法により算出した額を控除した額をいう。</p> <p>5 (略)</p> <p>(金融機関向けエクスポージャー)</p> <p>第四十条 金融機関(第一条第六号ロに掲げる者を除く。次項において同じ)、外国銀行、銀行持株会社、銀行持株会社に準ずる外国の会社及び日本郵政公社向けエクスポージャーのリスク・ウェイトは、</p>
---	---

が設立された国の中央政府に付与された格付又はカントリー・リスク・スコアに対応する信用リスク区分に応じ、それぞれ次の各号の表の左欄に定めるものとする。ただし、無格付の場合には、百パーセントとする。

一・二 (略)

2 前項の規定にかかわらず、金融機関及び銀行持株会社に対する円建てのエクスポージャーが円建てで調達されたものであつて、かつ、当該主体が信用供与を受けた日から満期までの期間が三月以内である場合のリスク・ウェイトは、二十パーセントとする。

3 (略)

(第一種金融商品取引業者向けエクスポージャー)

第四十一条 第一種金融商品取引業者向けエクスポージャーのリスク・ウェイトは、当該第一種金融商品取引業者がバーゼル銀行監督委員会の定める自己資本比率の基準又はこれと類似の基準（金融商品取引業等に関する内閣府令（平成十九年内閣府令第五十二号）を含む。）の適用を受ける場合限り、前条の規定に従うものとする。経営管理会社についても、同様とする。

(出資等のエクスポージャー)

第五十三条 第三十三条から前条までの規定にかかわらず、令第七条第五項第三号に規定する出資その他これに類するエクスポージャーのリスク・ウェイトは、百パーセントとする。

当該金融機関が設立された国の中央政府に付与された格付又はカントリー・リスク・スコアに対応する信用リスク区分に応じ、それぞれ次の各号の表の左欄に定めるものとする。ただし、無格付の場合には、百パーセントとする。

一・二 (略)

2 前項の規定にかかわらず、金融機関、銀行持株会社及び日本郵政公社に対する円建てのエクスポージャーが円建てで調達されたものであつて、かつ、当該主体が信用供与を受けた日から満期までの期間が三月以内である場合のリスク・ウェイトは、二十パーセントとする。

3 (略)

(証券会社向けエクスポージャー)

第四十一条 証券会社向けエクスポージャーのリスク・ウェイトは、当該証券会社がバーゼル銀行監督委員会の定める自己資本比率の基準又はこれと類似の基準（証券会社の自己資本規制に関する内閣府令（平成十三年内閣府令第二十三号）を含む。）の適用を受ける場合限り、前条の規定に従うものとする。証券持株会社についても、同様とする。

(出資等のエクスポージャー)

第五十三条 第三十三条から前条までの規定にかかわらず、令第五条第五項第三号に規定する出資その他これに類するエクスポージャーのリスク・ウェイトは、百パーセントとする。

(カレント・エクスポージャー方式)

第五十六条の二 (略)

2 (略)

3 次の各号に掲げるいずれかの額

一 派生商品取引(クレジット・デリバティブを除く。)を次のイの表の上欄に掲げる取引及び同表の中欄に掲げる残存期間に応じて区分し当該取引の想定元本額に同表の下欄に掲げる掛目(ただし、元本を複数回交換する取引については、各掛目を残存交換回数倍するものとする。)を乗じて得た額又はクレジット・デリバティブを次のロの表の上欄に掲げる取引の種類及び同表の中欄に掲げる原債務者の種類に応じて区分し当該取引の想定元本額に同表の下欄に掲げる掛目を乗じて得た額(以下「グロスのアドオン」という。)

イ (略)

ロ クレジット・デリバティブの掛目

(表略)

(注1) (略)

(注2) 優良債務者とは、次に掲げるものをいう。

① (略)

② 金融機関(第一条第六号ロに掲げる者を除く。)、銀行持株会社、銀行持株会社に準ずる外国の会社、第一種金融商品取引業者及び経営管理会社のうち第四十条又は第四十一条の基準に照らして二十パーセントのリスク・ウェイトとすることが認められている主体並びに適格格付機関により付与された格付に対応する信用リス

(カレント・エクスポージャー方式)

第五十六条の二 (略)

2 (略)

3 次の各号に掲げるいずれかの額

一 派生商品取引(クレジット・デリバティブを除く。)を次のイの表の上欄に掲げる取引及び同表の中欄に掲げる残存期間に応じて区分し当該取引の想定元本額に同表の下欄に掲げる掛目(ただし、元本を複数回交換する取引については、各掛目を残存交換回数倍するものとする。)を乗じて得た額又はクレジット・デリバティブを次のロの表の上欄に掲げる取引の種類及び同表の中欄に掲げる原債務者の種類に応じて区分し当該取引の想定元本額に同表の下欄に掲げる掛目を乗じて得た額(以下「グロスのアドオン」という。)

イ (略)

ロ クレジット・デリバティブの掛目

(表略)

(注1) (略)

(注2) 優良債務者とは、次に掲げるものをいう。

① (略)

② 金融機関(第一条第六号ロに掲げる者を除く。)、銀行持株会社、銀行持株会社に準ずる外国の会社、証券会社及び証券持株会社のうち第四十条又は第四十一条の基準に照らして二十パーセントのリスク・ウェイトとすることが認められている主体並びに適格格付機関により付与された格付に対応する信用リス

ク区分が4―3又は5―3以上である主体をいう。

(注3) (略)

二 (略)

(簡便手法を用いる場合の適格金融資産担保)

第六十六条 簡便手法を用いる場合の適格金融資産担保は、次の各号に掲げるものとする。

一～四 (略)

五 適格格付機関が格付を付与していない債券であつて、次に掲げるすべての条件を満たすもの

イ (略)

ロ 取引所金融商品市場、店頭売買有価証券市場又は外国金融商品市場において売買されていること。

ハ～ヘ (略)

六 指定国の代表的な株価指数(平成十九年八月十七日金融庁告示第五十九号(金融商品取引業者の市場リスク相当額、取引先リスク相当額及び基礎的リスク相当額の算出の基準等を定める件)第一条第二十四号に掲げる指定国の代表的な株価指数をいう。以下「一条第二十四号に掲げる指定国の代表的な株価指数をいう。以下同じ。)を構成する株式を発行する会社の株式等(株式及び株式に転換する権利を付された社債をいう。以下この節において同じ。)

七 (略)

(ボラティリティ調整率の適用除外)

第七十八条 (略)

2 前項の「中核的市場参加者」とは、次に掲げるものをいう。

分が4―3又は5―3以上である主体をいう。

(注3) (略)

二 (略)

(簡便手法を用いる場合の適格金融資産担保)

第六十六条 簡便手法を用いる場合の適格金融資産担保は、次の各号に掲げるものとする。

一～四 (略)

五 適格格付機関が格付を付与していない債券であつて、次に掲げるすべての条件を満たすもの

イ (略)

ロ 取引所有価証券市場、店頭売買有価証券市場又は外国有価証券市場において売買されていること。

ハ～ヘ (略)

六 指定国の代表的な株価指数(証券会社の自己資本規制に関する内閣府令別表第六の指定国の代表的な株価指数をいう。以下同じ。)を構成する株式を発行する会社の株式等(株式及び株式に転換する権利を付された社債をいう。以下この節において同じ。)

七 (略)

(ボラティリティ調整率の適用除外)

第七十八条 (略)

2 前項の「中核的市場参加者」とは、次に掲げるものをいう。

<p>一 (略)</p> <p>二 金融機関(第一条第六号ロに掲げる者を除く)、外国銀行、銀行持株会社、銀行持株会社に準ずる外国の会社、第四十一条においてリスク・ウェイトが規定されている第一種金融商品取引業者及び経営管理会社、金融商品取引法第二条第三十項に規定する証券金融会社、貸金業の規制等に関する法律施行令(昭和五十八年政令第八十一号)第一条第三号に基づき金融庁長官が指定する短資会社並びに前号に該当しない国際開発銀行</p> <p>三 五 (略)</p> <p>六 金融商品取引法第二条第二十九項に規定する金融商品取引清算機関</p> <p>(ダブル・デフォルト効果の取扱い)</p> <p>第三百三十一条の二 (略)</p> <p>2 前項に規定する追加的要件は、次に掲げるものとする。</p> <p>一・二 (略)</p> <p>三 保証人又はプロテクション提供者が、第四十条若しくは第四十一条に掲げる主体又は保険会社(保険業法(平成七年法律第百五号)第二条第二項に規定する保険会社をいう。以下同じ。)若しくは外国保険業者(同条第六項に規定する外国保険業者をいう。以下同じ。)のうち信用リスクの削減を目的とする保証又はクレジット・デリバティブを業として行っている者であり、かつ、次のイからハまでに掲げる条件のすべてを満たすこと。</p> <p>イ バーゼル銀行監督委員会の定める自己資本比率の基準若しくはこれと類似の基準(金融商品取引業等に関する内閣府令を含む</p>

<p>一 (略)</p> <p>二 金融機関(第一条第六号ロに掲げる者を除く)、外国銀行、銀行持株会社、銀行持株会社に準ずる外国の会社、日本郵政公社、第四十一条においてリスク・ウェイトが規定されている証券会社及び証券持株会社、証券取引法第二条第三十二項に規定する証券金融会社、貸金業の規制等に関する法律施行令(昭和五十八年政令第八十一号)第一条第三号に基づき金融庁長官が指定する短資会社並びに前号に該当しない国際開発銀行</p> <p>三 五 (略)</p> <p>六 証券取引法第二条第三十一項に規定する証券取引清算機関</p> <p>(ダブル・デフォルト効果の取扱い)</p> <p>第三百三十一条の二 (略)</p> <p>2 前項に規定する追加的要件は、次に掲げるものとする。</p> <p>一・二 (略)</p> <p>三 保証人又はプロテクション提供者が、第四十条若しくは第四十一条に掲げる主体又は保険会社(保険業法(平成七年法律第百五号)第二条第二項に規定する保険会社をいう。以下同じ。)若しくは外国保険業者(同条第六項に規定する外国保険業者をいう。以下同じ。)のうち信用リスクの削減を目的とする保証又はクレジット・デリバティブを業として行っている者であり、かつ、次のイからハまでに掲げる条件のすべてを満たすこと。</p> <p>イ バーゼル銀行監督委員会の定める自己資本比率の基準若しくはこれと類似の基準(証券会社の自己資本規制に関する内閣府</p>

む。)の適用を受けていること又は適格格付機関により付与された格付に対応する信用リスク区分が4―3以上であること。

ロ 保証又はクレジット・デリバティブが付されてから算出基準日までのいずれかの時点において、4―2以上の信用リスク区分(第四十条又は第四十一条に掲げる主体の格付については、第四十二条第一項の表を準用するものとする。ハにおいて同じ。)に対応するPDに相当するPDが割り当てられた内部格付が付与されていること。

ハ (略)

四〇九 (略)

3 ダブル・デフォルト効果を適用したエクスポージャーの信用リスク・アセットの額は、次条に定めるPD、第三百三十二条に定めるLD、第三百三十四条に定めるEAD及び第三百三十五条に定めるマチュリティ(M) (ただし、保証又はクレジット・デリバティブのEを用いるものとし、一年を下回ることはいできない。)を用いて、次の第一号に掲げる算式により、同号に掲げる算式の算出に要するダブル・デフォルト効果を勘案した所要自己資本率(K_{D1})は第二号に掲げる算式により、同号に掲げる算式の算出に要する所要自己資本率(K_{D2})は第三号に掲げる算式により、同号に掲げる算式の算出に要する相関係数(β)及びマチュリティ調整(σ)は、それぞれ第四号及び第五号により算出される額とする。

一・二 (略)

三 所要自己資本率

令を含む。)の適用を受けていること又は適格格付機関により付与された格付に対応する信用リスク区分が4―3以上であること。

ロ 保証又はクレジット・デリバティブが付されてから算出基準日までのいずれかの時点において、4―2以上の信用リスク区分(金融機関又は証券会社(第四十一条の規定に該当するものに限り。)の格付については、第四十二条第一項の表を準用するものとする。ハにおいて同じ。)に対応するPDに相当するPDが割り当てられた内部格付が付与されていること。

ハ (略)

四〇九 (略)

3 ダブル・デフォルト効果を適用したエクスポージャーの信用リスク・アセットの額は、次条に定めるPD、第三百三十二条に定めるLD、第三百三十四条に定めるEAD及び第三百三十五条に定めるマチュリティ(M) (ただし、保証又はクレジット・デリバティブのEを用いるものとし、一年を下回ることはいできない。)を用いて、次の第一号に掲げる算式により、同号に掲げる算式の算出に要するダブル・デフォルト効果を勘案した所要自己資本率(K_{D1})は第二号に掲げる算式により、同号に掲げる算式の算出に要する所要自己資本率(K_{D2})は第三号に掲げる算式により、同号に掲げる算式の算出に要する相関係数(β)及びマチュリティ調整(σ)は、それぞれ第四号及び第五号により算出される額とする。

一・二 (略)

三 所要自己資本率

$$(K_0) = \left[LGD_g \times N \left\{ (1-R)^{-0.5} \times \alpha(PD_0) + \left(\frac{R}{1-R} \right)^{0.5} \times \alpha(0.999) \right\} - EL \right] \times \{1 - 1.5 \times b\}^{-1} \times \{1 + (M - 2.5) \times b\}$$

LGD_g は、被保証債権若しくは原債権の債務者の LGD 又は保証人若しくはプロテクション提供者の LGD のうち、当該取引の性質に照らして適切と認められる数値

PD₀ は、被保証債権又は原債権の債務者の PD

EL は、PD₀ に LGD_g を乗じた率

四・五 (略)

4 (略)

(信用リスク・アセットのみなし計算)

第四百四十四条 (略)

2・3 (略)

4 農林中央金庫が内部格付手法を採用した場合は、保有するエクスポージャーの信用リスク・アセットの額を直接に計算することができる。かつ、第一項及び第二項の規定によることができない場合であつて、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産の運用に関する基準が明らかでないときは、当該エクスポージャーが次の各号に掲げる要件を満たしている限りにおいて、前条第七項に規定する内部モデル手法を準用して信用リスク・アセットの額を算出することができる。この場合において、同項中「保有する株式」とあるのは「保

$$(K_0) = \left[LGD_g \times N \left\{ (1-R)^{-0.5} \times \alpha(PD_0) + \left(\frac{R}{1-R} \right)^{0.5} \times \alpha(0.999) \right\} - EL \right] \times \{1 - 1.5 \times b\}^{-1} \times \{1 + (M - 2.5) \times b\}$$

LGD_g は、被保証債権若しくは原債権の債務者の LGD 又は保証人若しくはプロテクション提供者の LGD のうち、当該取引の性質に照らして適切と認められる数値

PD₀ は、被保証債権又は原債権の債務者の PD

EL は、PD₀ に LGD_g を乗じた率。ただし、PD₀ が百パーセントの場合は第九十三条第六項に定める ElDefault とする。

四・五 (略)

4 (略)

(信用リスク・アセットのみなし計算)

第四百四十四条 (略)

2・3 (略)

4 農林中央金庫が内部格付手法を採用した場合は、保有するエクスポージャーの信用リスク・アセットの額を直接に計算することができる。かつ、第一項及び第二項の規定によることができない場合であつて、当該エクスポージャーの裏付けとなる資産の運用に関する基準が明らかでないときは、当該エクスポージャーが次の各号に掲げる要件を満たしている限りにおいて、前条第七項に定める「内部モデル手法」を準用して信用リスク・アセットの額を算出することができる。この場合において、「株式」及び「株式等エクスポージャ

有するエクスポージャー」と、「株式等エクスポージャー」とあるのは「エクスポージャー」と読み替えるものとする。

一 (略)

二 保有するエクスポージャーが金融商品取引法第九十三条の二第一項に規定する公認会計士又は監査法人による監査証明又はそれに準じる外部監査を、年一回以上の頻度で受けていること。

三 (略)

5・6 (略)

(金利リスク・カテゴリーの個別リスク)

第二百六十一条 第二百五十七条第一号に掲げる金利リスク・カテゴリーの個別リスクの額は、債券等の銘柄ごとのネット・ポジションの額に、次の表の上欄に掲げる区分に応じ同表の下欄に定めるリスク・ウェイトを乗じて得た額の合計額とする。ただし、日本国政府又は我が国の地方公共団体の発行する円建ての債券等のうち円建てで調達されたものについては、リスク・ウェイトを零パーセントとすることができる。

(次の表略)

(注1) (略)

(注2) 「優良債」とは、公共部門又は国際開発銀行の発行

した債券等、金融機関（第一条第六号ロに掲げる者を除く）、銀行持株会社、銀行持株会社に準ずる外国の会社、第一種金融商品取引業者及び経営管理会社の発行した債券等のうち第四十条又は第四十一条の基準に照らして二十パーセントのリスク・ウェイトとするこ

一」とあるのは「エクスポージャー」と読み替えるものとする。

一 (略)

二 保有するエクスポージャーが証券取引法第九十三条の二第一項に規定する公認会計士又は監査法人による監査証明又はそれに準じる外部監査を、年一回以上の頻度で受けていること。

三 (略)

5・6 (略)

(金利リスク・カテゴリーの個別リスク)

第二百六十一条 第二百五十七条第一号に掲げる金利リスク・カテゴリーの個別リスクの額は、債券等の銘柄ごとのネット・ポジションの額に、次の表の上欄に掲げる区分に応じ同表の下欄に定めるリスク・ウェイトを乗じて得た額の合計額とする。ただし、日本国政府又は我が国の地方公共団体の発行する円建ての債券等のうち円建てで調達されたものについては、リスク・ウェイトを零パーセントとすることができる。

(次の表略)

(注1) (略)

(注2) 「優良債」とは、公共部門又は国際開発銀行の発行した

債券等、金融機関（第一条第六号ロに掲げる者を除く）、銀行持株会社、銀行持株会社に準ずる外国の会社、証券会社及び証券持株会社の発行した債券等のうち第四十条又は第四十一条の基準に照らして二十パーセントのリスク・ウェイトとすることが認められているもの並びに適格格付機

とが認められているもの並びに適格格付機関により付与された格付に対応する信用リスク区分が4―3又は5―3以上である債券等をいう。

2 (略)

(株式リスク・カテゴリーの個別リスク)

第二百六十六条 (略)

2 (略)

3 同一の株価指数の先物取引について、異なる日付又は異なる取引所(金融商品取引法第十六条に規定する金融商品取引所及び商品取引所法(昭和二十五年法律第二百三十九号)第二条第一項に規定する商品取引所並びに海外におけるこれらと類似のものをいう。以下同じ。)で裁定取引を行っている場合においては、一方の取引についてのみ個別リスクの額を算出し、他方の取引については個別リスクの額を算出しないことができる。

附 則

(移行期間中における内部格付手法又は先進的計測手法の使用開始に伴う所要自己資本の下限の特則)

第九条 農林中央金庫が平成二十年三月三十一日前に基礎的内部格付手法を採用する場合並びに農林中央金庫が平成二十年三月三十一日に先進的内部格付手法を採用する場合であって先進的内部格付手法の使用の開始の直前まで旧告示により自己資本比率を計算している場合及び平成二十年三月三十一日に先進的計測手法を採用する場合

関により付与された格付に対応する信用リスク区分が4―3又は5―3以上である債券等をいう。

2 (略)

(株式リスク・カテゴリーの個別リスク)

第二百六十六条 (略)

2 (略)

3 同一の株価指数の先物取引について、異なる日付又は異なる取引所(証券取引法第二条第十六項に規定する証券取引所、商品取引所法(昭和二十五年法律第二百三十九号)第二条第一項に規定する商品取引所及び金融先物取引法(昭和六十三年法律第七十七号)第二条第六項に規定する金融先物取引所並びに海外におけるこれらと類似のものをいう。以下同じ。)で裁定取引を行っている場合においては、一方の取引についてのみ個別リスクの額を算出し、他方の取引については個別リスクの額を算出しないことができる。

附 則

(移行期間中における内部格付手法又は先進的計測手法の使用開始に伴う所要自己資本の下限の特則)

第九条 農林中央金庫が平成二十年三月三十一日前に基礎的内部格付手法を採用する場合、農林中央金庫が平成二十年三月三十一日に先進的内部格付手法を採用する場合であって先進的内部格付手法の使用の開始の直前まで旧告示により自己資本比率を計算している場合及び平成二十年三月三十一日に先進的計測手法を採用する場合は、

は、新告示第十三条及び第二十四条に代えて、次の表の上欄に掲げる期間について、旧所要自己資本の額にそれぞれ同表の下欄に定める率を乗じて得た額が新所要自己資本の額を上回る場合には、当該上回る額を八パーセントで除して得た額を自己資本比率の算式の分母に加えなければならない。ただし、基礎的内部格付手法又は先進的内部格付手法を採用する農林中央金庫が、平成二十年三月三十一日の後に先進的内部格付手法又は先進的計測手法を採用する場合、先進的内部格付手法又は先進的計測手法の使用の開始の日以降については、これに代えて、新告示第十三条及び第二十四条の規定の適用を受けるものとする。

2
(略)

新告示第十三条及び第二十四条に代えて、次の表の上欄に掲げる期間について、旧所要自己資本の額にそれぞれ同表の下欄に定める率を乗じて得た額が新所要自己資本の額を上回る場合には、当該上回る額を八パーセントで除して得た額を自己資本比率の算式の分母に加えなければならない。ただし、基礎的内部格付手法又は先進的内部格付手法を採用する農林中央金庫が、平成二十年三月三十一日の後に先進的計測手法を採用する場合、先進的計測手法の使用の開始の日以降については、これに代えて、新告示第十三条第二項及び第二十四条第二項の規定の適用を受けるものとする。

2
(略)

(次の表略)

(次の表略)